

## (瀬戸市) 陶原っ子サポートステーション (陶原小学校地域協働室)

市町村の 基本情報	学校数	小学校 16 校、中学校 7 校、特別支援学校 2 校			
	地域学校協働 活動推進員等 の配置状況	統括的な地域学校協働活動推進員		0 人	
		地域学校協働活動推進員		19 人	
		統括コーディネーター		1 人	
		地域コーディネーター		0 人	
	CS 及び地域学 校協働本部設 置状況	CS を導入している学校数	小 6 校	中 3 校	特支 2 校
地域学校協働本部が カバーしている学校数		小 6 校	中 3 校	特支 2 校	



### (活動の実際)

#### <活動内容>

- ・ 本の読み聞かせ
- ・ 環境整備 (草取り、修繕等)
- ・ 登下校の見守り
- ・ 裁縫授業の補助

◎感染症対策として、オンライン配信の読み聞かせを実施。オンラインで各教室に生配信し、読後には児童が感想をオンラインで発表。クラスを超えた感想の共有をすることで、これまでにない交流がうまれた。

#### <意識や工夫>

- ・ 負担感を軽減するために、新しい活動を増やすことを目的とせず、まずは今の活動を関係者で共有し相談し合えるゆるやかなネットワークを構築することを意識している。
- ・ 「できる人ができるときに、できることをやれるように」をモットーに、ボランティアの登録等はせずに、活動毎の管理としている。



### (コロナ禍での苦勞・工夫)

コロナ第1波のときに校内の消毒作業をお願い出来る方がいないか、という学校からの相談を受けた地域学校協働活動推進員が、PTA や地域の方々へ呼びかけをして校内消毒作業がスタート。無理なくできるときにできる人にやってもらうことを目的に、特に当番は決めず、毎日、学校の玄関に校内の地図と記名表を置き、参加希望者が都合の良い時間に参加し、消毒した箇所印をつけて名前と来校時間を記入。次に来た方がそれを見て印のない箇所を消毒する、というシステムで実施。しっかり管理をしない、ということの効果で、これまで参加したことのない卒業生の大学生が同級生と参加することもあり、地域の方々には「参加しやすい」と好評で、令和2年度の参加者数は延べ145名、今年度は6月までの数で延べ41名。この活動は現在も継続している。

### (◎成果 ●課題)

- ◎ 地域学校協働活動推進員が配置されたことにより、地域や学校からの要望を聞き、地域や学校の特色を生かした形で連携することができた。
- 教職員の理解促進のための方策が課題。管理職だけでなく教職員の参画をすすめることで地域学校協働活動が推進されると考えている。

### (関係者の声)

- ・ 裁縫授業の補助に参加し、孫やその友達との関りが深まり、生きがいにつながっている。(地域の方)
- ・ 消毒作業のボランティアに参加したが、久しぶりの母校の役に立つことができ嬉しい。(大学生)